

令和5年度後期 開志専門職大学情報学部 教育課程連携協議会 議事要旨

1. 日 時 2024年3月22日（金） 14:00～16:00
2. 会 場 米山キャンパス Y306 教室
3. 出席者 三上委員長、田代副委員長、木田委員、黒田委員、中野委員
原田委員、箕打委員、山田委員
淡路学務課長・社会連携推進部長、宮本社会連携推進課員
4. 会次第
 - 1) 開会の挨拶 三上委員長
 - 2) 出席者挨拶（近況ご紹介）

委員名簿に従い木田委員から順次近況報告をおこなった
なお箕打委員については所属先（新潟市総務部デジタル行政推進課）が任期満了とのことで今回が最後の出席となった
 - 3) 前回議事録の確認
三上委員長より、委員全員に内容確認がおこなわれた
 - 4) 情報学部について
 - (1) 令和6年度の募集状況について
事務局淡路より、資料5に基づき情報学部の2024年度入学者等の状況について説明がされた
現在47名が確定している状態で募集定員7割を切ると文科省より指摘がある状況
 - (2) 令和5年度度の学部運営について
事務局淡路より、資料6に基づき説明がされた
入学時80名が卒業時は59名。標準修業年限卒業率は73.8%。卒業不可者（休学・留年）10名、退学・除籍者11名。
59名の卒業者のうち就職した者が56名。就職しなかった3名の内訳は1名がフリーランス、1名が体調不良による療養、1名が就職希望なし。
在籍数の推移については令和5年度1年生47名、2年生72名、3年生61名、4年生70名でスタート。例年より1年生が少ない状況。
退学数は7名でそのほとんどが「学生個人の心身に関する事情」。今後心身のケアが課題。
 - (3) 令和5年度の臨地実務実習について
事務局淡路より、資料7に基づき説明がされた
令和5年度の臨地実務実習先は47社。うち15社は県外企業（東京、大阪、名古屋、北九州）
2月15日臨地実務実習シンポジウム開催。シンポジウムの企業参加数は

2021 年度 22 社、2022 年度 54 社、2023 年度 86 社であり、企業の臨地実務実習への興味関心が年々高くなっていることがうかがえる。

臨地実務実習と就職についての関連として、実習先企業に就職 12%、自分の実習先以外の実習先に就職 21%。初年度でこの数字のため今後ますますこの数字は上がると想定される

(4) 令和 5 年度の就職状況について

事務局淡路より資料 8 に基づき説明がされた

2024 年春の卒業生の就職状況の内訳は 95%が IT 企業への就職。専門職大学として 4 年間で学んだ IT の知識・技術が業界で生かせる結果となり自信がついた。ただし新潟県としての就職は県内 33%、県外 67%ということで地元にとりだけ定着させるかが課題

(5) 令和 6 年度の就職状況について

事務局淡路より資料 9 に基づき説明がされた

2025 年卒業の内定率状況は 61 名が求職登録中。うち 17 名が内定。内定率 23%。ほとんどが東京の企業

●山田委員：

退学について。心身のケアが問題とのことだが、例えば心身が弱くて対面での授業が難しいといった学生についてもリモートでおこなうということをしていないで対面で授業に参加できるように強い人材を育成する方針か？

●淡路：

4 月から「合理的配慮」が義務化となるので、学生の要望（申請）を確認しながら大学としてサポートできることを検討して進めていきたい

●山田委員：

採用試験で、1～2 回の対面は問題なかったが、就職してみると対面で接することができないという人がある。昔に比べると増えている

●黒田委員：

事業創造大学院大学は 80 名在籍しているが、コロナのためか人間関係が希薄になり 10 名ほど休学者がいる

●中野委員：

新潟大学も昔に比べると増えている

●三上委員長：

留学生の IT 人材についてお聞かせください

●山田委員：

ベトナムの留学生が 1 人就職してもよいという話があるが、3～4 年いてもらい社員に刺激を与える効果を望んでいる。中国・台湾からも雇用したが 5 年くらいしか続かなかった

●木田委員：

ミャンマーの留学生は日本語はできるか？

●中野委員：

モンゴルには日本語を勉強する高校がある。開志に留学生がきたらどうする？

●三上委員長：

実際に情報学部には4名留学生がいるが授業は日本語でしかやらない。N2相当以上の学生が入学条件

5) その他

(1) 編入制度について

事務局淡路より資料10・11に基づき説明がされた

来年より施行予定。専門学校2年で卒業後、本学3年生に編入。本学生と同じく4年生で卒業。今までは専門学校2年で卒業後、本学2年生に編入。5年生で卒業

※退学などで減った人数の補充が名目

●木田委員：

臨地実務実習は2年生で150時間予定だが編入の場合はどうするのか？

●田代副委員長：

例えば夏休み中に臨地実務実習Ⅰを実施し、後期から続けて臨地実務実習Ⅱを実施する

●山田委員：

新入生の女子率は？最近女子枠を設けている大学を目にする

●田代副委員長：

女子は2割くらい

●中野委員：

編入などいれて定員を充足させたいと考えているのか？

●三上委員長：

はい、入学者をきちんといれて100%にしたいと考えている

●中野委員：

臨地実務実習に時間を割かれるため教員の高校訪問が減っているということはないか？

●三上委員長：

臨地実務実習を専門職大学としての「売り」にしたいために教員は力をいれている

●中野委員：

JRの中刷りに1年中国国際情報大学のオープンキャンパスと入試がある

●三上委員長：

今後 KAISHI LAB に興味を持つ専門高校（工業高校、商業高校）にアプローチしていく予定

以上